

ぼくらができるひ災地支えん

「ぼくらも何かをしよう。」

そんな声があがったのは、神戸を大地震がおそってから3日目の朝、ボランティアの人たちがやって来たニュースを見ているときだった。

わたしたちのクラスでは、朝も昼も大地震のニュースをテレビで見ている。1日目の朝は、びっくりしてさわいでいた。でも、その日の昼からは、みんなだまってしまった。道路やビルがこわれているだけでなく、火が燃え広がっている。家族をなくし泣いている人がいる。家をなくし立ちつくす人がいる。たくさんの人たちが学校に避難している。人々の苦しみや悲しみが、わたしたちにもひしひしと伝わってきた。

3日目の2時間目から、何かできることはないかとクラスで話し合った。わたしたちの力で、今すぐできることを考えた。学校や避難所にいる人たちにはげましの手紙を送ること、ぼ金を集めて送ること、そして児童会にもよびかけて全校に協力してもらうことに決まった。

児童会の委員が、校門でぼ金を集めている。先生たちや学校に来た大人の人にもぼ金をしてくれる。わざわざ、学校まで持ってきてくれる人もいる。はげましの手紙はわたしたちのクラスで集めている。こんなに集まるとは思っていなかった。1年生の子まで書いてくれた。みんな、大地震におそわれた人々を、少しでも助けたいと思っている。

「地いきの人にもよびかけよう。」

そんな意見も出てきて、学級会で話し合うことになった。

ひ害の大きさに比べたら、わたしたちがやっていることはささいなことかもしれないけど、わたしたちは、今がんばっている。

(明日に生きる「ぼくらも何かをしよう」)

東日本大震災で兵庫の小学生が行った支えん



校内でのぼ金活動 (三木市立別所小学校)



(写真提供 神戸新聞社)

学校でつくった米をひ災地へ送る活動の計画 (豊岡市内の14小学校)

お礼の手紙

豊岡市に住む小学生のみなさん、
お米をありがとうございます。
とてもうれしかったです。
わたしは、すぐに地図帳で豊岡を調べました。そして、
コウノトリのマークがあり、かばんが名産品だと知りました。
豊岡盆地はどんなところですか。
名産は、津波のためにがれきがいっぱいです。それを見ると、
悲しい気持ちになります。でも、みなさんが応援してくれるので、
あきらめなくてがんばります。お米はたいせつに食べます。
大きなつぶのお米にびっくりしました。
ありがとうございました。
南三陸町立名足小学校5年生



(写真提供 神戸新聞社)

津波で流された写真のどろやほこりを取り除く活動 (神戸市立桂木小学校)

支えん物資は箱ごとに分類して送ればひ災地で仕分けをしなくてすむね。



ひ災者のために手紙と折りづるを送る活動 (太子町立斑鳩小学校)



(写真提供 神戸新聞社)

お礼の手紙はうれしかったけど、書くのもたいへんだったでしょうね。

